

# 令和2年度 自己評価報告書

令和3年3月  
岐阜県立衛生専門学校

## 1 本校の教育理念

資料1

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。

## 2 令和2年度組織（所属）目標及び目標項目、目標値と実績

### 1) 質の高い教育と教職員の育成

#### (1) カリキュラム評価

資料11～13、19～22

##### ① 1科目1回以上の授業参観の実施

・3学科が1回以上の授業参観を実施した。ほか、2学科は、授業参観の目標回数に達していないが、授業参観に加え、研究授業に取り組んだ。

##### ② 学科を超えた授業参観の実施

・教室内の密集回避の観点から実施していない。

##### ③ 授業評価の毎回実施

・全学科、科目ごとの評価が実施できた。

##### ④ カリキュラム評価に関する学習会の開催

・会場形式の研修会の多くが中止となり、webセミナーを活用した。研修当日はオンラインで受講し、開催日以降はオンデマンドによる年間配信等を活用し、学科を超えて多くの職員が受講できた。

#### (2) キャリアラダー

##### ① 研修の受講

・職員全員が自己のキャリア目標到達を意識した研修計画（県の職員研修、自己研鑽のための研修）を立案したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、受講の取り止めに指示した職員もあった。

#### (3) 研究能力の向上

##### ① 研究に関する学内研修の開催

・全体研修は開催できていないが、看護系は学科内で小グループワーキングを立ち上げ、研究授業に取り組んだ。

### 2) 業務改善の推進

資料5～6

#### (1) 業務の効率化

##### ① 管理調整係、各学科での業務の見直し、効率化を1件以上

・各係、学科が業務の効率化に関する目標を1件以上立案し、取り組むことができた。また、業務改善委員会を介して、各学科共通で検討すべき課題を10項目抽出し検討し、うち、5項目において業務の利便性や効率化を図ることができた。ほか、3項目は現状維持、2項目は次年度持ち越しとなった。

#### (2) 危機管理体制整備

##### ① 防災訓練の計画立案と実践

・感染症拡大防止のため、防災訓練は実施できていないが、学生の安否確認訓練等を12月に実施した。その他、災害時対応等、学生便覧に基づく学生への説明周知を実施した。

#### (3) 学生生活環境の整備

##### ① ICT教育環境の整備に関する次年度の予算要求

・ICT教育環境整備については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、遠隔授業等の必要性が急務となり、1年前倒しで予算要求することができた。2～3月にかけて校内Wi-Fi環境の整備と各種備品購入が完了した。

### 3) 入学生の確保及び県内就業支援

資料9～10

#### (1) 入学者数

##### ①令和3年度入学者数

(目標値：前年入学者数)

	目標	実績
助産学科	11名以上確保	→ 11名
第一看護学科	33名以上確保	→ 39名
第二看護学科	33名以上確保	→ 30名
歯科技工学科	11名以上確保	→ 10名
歯科衛生学科	22名以上確保	→ 21名
②高等学校訪問(6月)	34校(前年34校)	→ 中止
③准看護師養成所訪問(6月)	7校(前年7校)	→ 中止
④オープンキャンパス参加者(7月)	470人(前年411人)	→ 中止
⑤歯科系学科学校説明会の開催	4回(前年4回)	→ 3回(6～10月実施)
⑥進学ガイダンス(業者・高校開催)	18回(前年8回)	→ 10回
⑦出身校への手紙・訪問(在学生)	全学科	→ 全学科の出身校(高校・准看護師養成所)協力者の出身校 延べ22校
⑧入学生アンケートの実施	入学生全員(111名)に依頼	→ 111名に実施

#### (2) 県内就業支援

##### ①県内施設への就業率

(目標値：過去5年間の平均値)

助産学科	79%以上	→ 88%
第一看護学科	95%以上	→ 100%
第二看護学科	79%以上	→ 82%
歯科技工学科	59%以上	→ 50%
歯科衛生学科	75%以上	→ 77%
②インターンシップの参加	中止	
③卒業生と語る会の開催	中止	
④卒業生交流会参加率	20%(前年度20%) → 中止	
⑤就業先選択理由調査	各学科で年間通して就業支援を実施しており、学生の情報を蓄積しているため、今年度より廃止とした。	

### 3 評価項目の達成及び取組状況

#### 1) 学校経営

資料1～8

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。</li> <li>組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。</li> <li>学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。</li> <li>管理職のリーダーシップのもと、係長が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。</li> </ul>	4.6

○評価点：5 よい 4 ややよい 3 普通 2 やや不十分 1 不十分

- ・中期目標(2019年～2021年)と2020年度の組織目標、目標値を策定し、メール配信、職員会議、学科会議で周知した。
- ・4～5月休校措置をとったため、第1回の評価時期を8月から9月末へ変更し、第2回は例年同様に12月に実施した。また、学生による学校評価も併せて12月に実施した。中間評価結果を共有したが、第2回の評価までの期間が短く学校運営への反映が困難であり、中間・最終評価を受けて取り組む形となった。令和元年度の学校評価結果は、ホームページにて公表した。
- ・第1回学校関係者評価委員会(9月)で、令和元年度学校評価結果を評価委員に報告し、意見交換を行った。委員からの意見をとりまとめ、第2回学校関係者評価委員会(11月書面会議)で報告した。これらの結果は、職員会議、学科等の会議で共有し、今後の教育活動、学校運営に繋げるようにした。

## 2) 学科運営

資料 11～12

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時に持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。</li> <li>・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。</li> <li>・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。</li> <li>・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。</li> <li>・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。</li> <li>・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。</li> <li>・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。</li> <li>・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。</li> <li>・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。</li> <li>・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。</li> <li>・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。</li> <li>・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。</li> </ul>	4. 1

- ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー等の説明を、入学時ガイダンス、始業後のHRで行い、学生への意識付けを行った。また、卒業時に学生の到達状況を分析できた。
- ・各学科、専門科目の授業評価を実施し、その分析結果を次年度の教育課程に繋げることができた。また、看護系ではカリキュラム改正に向けての資料とし、歯科系では、現行カリキュラムの問題点抽出の材料となった。
- ・第二看護学科では、准看護師課程と看護師課程各々の卒業時の到達目標を比較し、カリキュラム改正に向けて強化すべき学習内容を明確にした。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校措置やソーシャルディスタンスを優先した演習や実習などを受け、教育課程の大幅な変更により、順序性や方法論の変更を余儀なくされた。しかし、学生の学習到達状況を示す各科目評価においては、例年を下回る状況は少なく、概ね学習目標の到達はできたと判断できるが、技術到達には課題が残る。
- ・例年、実習開始前には実習施設と会議を開催し、実習の内容、方法についての確認・調整を行うが、今年度は感染症拡大防止の観点から参加人数を縮小したり、紙面でのやり取りに変更するなど柔軟に対応をしながら実習目標が達成できるように、実習指導者と協力し指導を行った。また、当初の実習計画から大幅変更等も多々あり、中には次年度へ持ち越す科目も生じたが、変更点の意思統一を図り、施設とも細やかな調整を重ねながら目標到達を目指し取り組むことができた。実習後は実習評価から実習のまとめを実習施設に報告し、次年度に向けての調整を行った。
- ・実習時のインシデント・アクシデント発生時の分析は全学科行うことができた。事案の分析、再発防止策を教員、実習指導教員間で共有すると共に学生にも周知した。学生からは、「他のグループのこともすぐ伝わり、気を付けようと思った」という意見があった。
- ・効果的・適切な時間割の作成については、学生から「適切である」「内容に関連性がある授業が考慮されている」という意見がある一方、「配布が遅い」「テストの日程を分散してほしい」「コロナでつめつめ」「急な時間割変更がある」などの意見があった。

## ①課題

- ・助産学科、第一看護学科は、令和4年より新カリキュラム施行が決定している。
- ・全学科において、実習期間や実習方法に制約を受けたことで、コミュニケーションを始めとした技術教育の不足がある。

## ②改善方策

- ・看護系は、カリキュラム評価を基に新カリキュラム構築の計画を立案し進めていく。
- ・カリキュラム評価の定着と評価の信頼度アップに向け、評価材料の見直しや評価時期等の検討を行う。
- ・技術教育については、教育方法の工夫や教材の有効活用等を検討する。
- ・各学科 ICT 教育を行う科目、方法等の運用計画を立案し、計画的に取り組む。(看護系では、改正カリキュラムにおいて、ICT を活用する基礎的能力が求められる。)

## 3) 入学・卒業対策

資料 9～10、13

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの応募者を確保することに努めているか。</li> <li>・国試の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。</li> <li>・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。</li> <li>・卒業生への支援を行っているか。</li> <li>・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。</li> </ul>	4.3

- ・人材確保・就業対策部会において、年間計画を立案し活動を行った。
- ・入学生確保の結果については、組織目標の評価で述べたように、助産学科、第一看護学科は目標値を上回ったが、第二看護学科、歯科技工学科、歯科衛生学科は目標値を下回った。令和2年度は学校訪問をはじめ、進路説明会、オープンキャンパス等、殆どの事業が中止、若しくは縮小(オンラインへ変更)となり、その影響が懸念されたが、助産学科、第一看護学科においては、志願者が約1.6倍増加した。一方、第二看護学科、歯科技工学科では、1.3～1.5倍減少した。学科別の増減については、学科によっては職業認知度の低さがあるが、全般的には広報活動の影響というより、新型コロナウイルス感染症拡大による社会情勢を反映した結果とも考えられる。
- ・優秀な学生確保のために、志願者数、入学者数の推移、入学者の状況、競合校の状況など昨年度の分析結果を踏まえ、令和2年度は特別入学試験の日程を早める予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大による休校等、受験生の学習状況への配慮から試験時期の前倒しは見送りとし、令和3年度予定する。
- ・県内就業率は、助産学科、第一看護学科、第二看護学科、歯科衛生学科は目標値を上回ったが、歯科技工学科は目標値を下回った。歯科技工学科では、数名は入学前から県外歯科クリニックや技工所に勤務し、籍を置いて入学してくる学生がいたことと、その他、県外を希望する学生の理由として、県内施設に比べ最新の機器の設置や福利厚生などの就労環境が良い県外施設を選択していると思われる。
- ・卒業生交流会は今年度中止となったが、これまで参加率が低いため、今後、案内や返信の方法などの検討が必要である。
- ・国家試験合格に向けて各学科が取り組んだ。結果は、4学科は全員合格、第二看護学科は1名不合格であった。不合格の理由は、学力不足に加えてメンタルの弱さも影響したと思われる。

## ①課題

- ・第二看護学科の特別入試、一般入試共に志願者数が減少した。
- ・歯科系の入学者数の変動はないが定員を割っている。
- ・卒業生交流会の参加率が例年低い。また、卒業生近況把握のはがきの返信率が低い。

## ②改善策

- ・人材確保・就業対策部会で行っている活動の見直し、確保に向けてはホームページ内に魅力発信できるコンテンツの掲載など、with コロナ時代にも対応できる対策の充実を検討する。
- ・歯科系の人材確保では、対象者を絞り込み PR 内容の強化を図るなど効果的な方法を検討する。

- ・ 歯科系の県内就業率を上げるために、関係団体と連携を図る。
- ・ 特別入学試験の時期を早めるため、結果から妥当性を分析する。
- ・ 卒業生交流会の参加率を上げるため、卒業生の近況把握をするために、案内、返信の方法（ocnメールの活用など）などを検討する。

#### 4) 学生生活への支援

資料 14～18

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。</li> <li>・ 経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。</li> <li>・ 学生の身体的側面の健康確保に努めているか。</li> <li>・ サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。</li> </ul>	3.8

- ・ 各学科、学生支援体制をつくり、定期的に学生面談、学生指導等を行い、教員間で情報共有を行った。特に支援が必要な学生については、適宜、面談を実施し、必要時、スクールカウンセラーや保護者と連携を図りながら学生支援を行った。
- ・ 心身の不安定な学生には、適宜、面談を実施し、必要時こころの相談室、専門医の受診を勧めた。こころの相談室には、昨年と比較し2割減の延17名（相談者8名）の学生が利用した。4～5月休校であったことを考えると、昨年と同等程度の利用はあったと言える。内容は人間関係、実習のことでの相談が多い。
- ・ 新型コロナウイルス感染症予防対策としては、感染状況の把握、国、県の方針を確認し、学校としての方針を打ち出し、教室の拡充配置に伴う運用や体調不良者の早期対応、報告ルート等の徹底を図った。また、健康管理委員会を中心に手洗い、手指消毒の徹底、ドアノブ等の消毒、部屋の換気等感染予防対策を行うように学生、職員に徹底したことで、予防対策が実施できた。結果、職員・学生共に罹患者の発生はなかった。
- ・ サークル活動への支援については、十分な検討ができていないが、今年度は歯科衛生学科に男子学生が1名入学したため、他学科の男子学生との交流会を企画し、相談できる関係づくりを支援した。
- ・ サークル活動に関する学生への意向調査では、6%が希望、93%が希望しないという結果であった。

##### ①課題

- ・ サークル活動を希望しない学生が多数存在している。

##### ②改善方策

- ・ サークル活動については、希望しない理由等をさらに調査し、体制（申請方法、助成金）づくりの必要性を検討する。

#### 5) 教職員の育成

資料 19～22

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。</li> <li>・ 学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。</li> <li>・ 教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。</li> <li>・ 教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。</li> <li>・ 教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。</li> </ul>	3.8

- ・ カリキュラム改正に関連した学習強化が必要な中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、予定されていた研修会の多くが中止となった。そこで、webセミナーを積極的に活用し、研修当日に見逃してもオンデマンドで一定期間視聴が可能なものを選定することで、学科を超えて多くの職員が受講できた。
- ・ 感染症拡大防止の観点から職場全体での集合研修等は開催せず、学科内での学習会に留め学び

を共有した。

- ・教員の研究能力向上について、研修等の継続的な取り組みを必要としていたが、今年度は取り組んでいない。しかし、看護系では研究授業に取り組み、科目目標と内容の整合性、科目全体の学習内容の順序性の見直しなど、授業設計スキルの向上に努めることができた。
- ・年度初めの業績目標立案時に、キャリア別到達目標を意識した目標を立案し、研修（県の職員研修、教育に関する研修）を計画した。研修自体が中止になることも多々あったが、目標到達に向けてwebセミナーの受講に切り替えるなど可能な範囲で実施した。
- ・臨床能力維持や専門知識を深めるために、看護学科は1名が実習施設で短期臨床研修を実施した。歯科技工学科は2名がデジタル機器対応の技工所で実務研修を実施した。
- ・今年度の目標値である授業参観は、3学科が授業参観を一人1回以上実施した。第一看護学科、第二看護学科では、目標値には達していないが、授業参観に加え、研究授業を取り入れたことで、教育方法の工夫以外に授業設計スキルの向上等の効果も得られた。

#### ①課題

- ・第一看護学科、第二看護学科が授業参観の目標値に達することができなかった。
- ・研究能力向上を目的とした研修等の継続ができていない。

#### ②改善方策

- ・授業参観の実施については、各学科定着したと判断できる。そのため、今後は実施回数を目値にするのではなく、研究授業の実施、または他学科の取り組みに参加する機会を設ける。
- ・研究能力向上については、研修会の開催から実践的取り組みへの一歩として、授業研究等の論文を一人1つ以上閲読し、学科内の授業の一つ以上は反映させる。

### 6) 管理運営・財政

資料14、23

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"><li>・予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。</li><li>・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。</li><li>・災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。</li><li>・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。</li></ul>	4. 1

- ・危機管理対策としては、学生便覧を用いて緊急時対応のガイダンスは実施したが、4月に予定していた全校学生を対象にした防災訓練は実施できていない。ほか、12月に学生を対象に大規模地震を想定した安否確認訓練（メール配信）を実施した。
- ・予算執行に関する仕組みが職員全体に浸透していないため、計画的な要求とならず緊急性の有無に関係なく、予算計画を逸脱した要求が発生している。
- ・学生の意見、要望（新入生と語る会、学生生活実態調査等）を受け、全体に共通する災害時対応については即改善を図り、試験の採点表記の方法や返却方法、時間割配布の時期、学生指導方法など、学科内での検討事項については教務主任に説明し、できることから速やかに対応した。
- ・ハラスメント防止について第二看護学科では、学生からの意見を受けて、学生への適切な対応ができるよう学習会を行った。
- ・個人情報の管理については、職員による不適切な管理があったため、原因を追究し、速やかに予防策を検討した。

#### ①課題

- ・実際の授業、実習を想定しての訓練ができていない。
- ・災害時の備蓄品の整備ができていない。
- ・予算執行の仕組みについて、教職員全体に浸透していない。

②改善方策

- ・実際の授業、実習を想定しての訓練を計画実施する。
- ・災害時の簡易トイレ、職員の食料飲料の備蓄を整備し、学生の3日分の備蓄を検討する。また、防災ヘルメットの設置（外来者・非常勤講師用）をする。
- ・予算の仕組みについて、教職員を対象とした学習会を検討する。

7) 施設設備

資料 2 3

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。</li> <li>・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。</li> <li>・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。</li> <li>・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。</li> <li>・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。</li> </ul>	<p>3. 6</p>

- ・学校関係者評価、学生からも「備品が古い」「時代に沿った教材を使用してほしい」と意見があり、必要な備品（古くて現場との違いが大きいもの、耐用年数など）の購入、更新については、3～5か年計画を作成し、今年度は、職員用にカラープリンター1台新規購入し、看護系に電動ベッド2台、ドップラー1セット、歯科衛生学科にプロジェクター1台を更新した。ほか、情報処理演習室に学生用ノートパソコン41台とプリンター5台を新規購入した。
- ・司書配置により図書室の紛失本が無くなり、新刊紹介等も充実し、学生の利用率および貸出数ともに前年比で3割程度の増加が見られた。ほか、学生からは開館時間の延長を求める声があがっている。
- ・令和元年度末に整備したオアシスルームは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限をしながらの利用としたが、学生はルールを守り食事や授業の空き時間、または放課後に自習する姿等が見受けられた。
- ・耐震基準はクリアしているが、備品の配置など災害発生時に危険な箇所があることや、学生からは、冷暖房の利用制限があり快適に授業を受講することができないとの意見が多く寄せられている。
- ・ICT教育環境の整備について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、遠隔授業等の必要性が急務となり、1年前倒しで予算要求することができた。2～3月にかけて校内Wi-Fi環境の整備と各種備品購入が完了した。

①課題

- ・古い備品が多く、計画的な更新ができていない。
- ・図書室の利便性が低い。
- ・ICT環境が整備されることを受け、ルール化が急務となる。

②改善方策

- ・必要な備品（古くて現場との違いが大きいもの、耐用年数など）の購入、更新については、3～5か年計画を作成し、計画的に整備できるように予算要求する。
- ・図書室については、引き続き司書を設置し、古い図書の整理、開館時間の拡大など学生が活用できる環境を整えていく。また、図書の検索システムが導入できるように、設置の要求をしていく。
- ・ICT機器の利用が円滑にできるよう運用マニュアル等の整備を行う。

## 8) 社会貢献、地域活動

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"><li>・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしている。</li><li>・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。</li></ul>	3.9

- ・医療機関等でのボランティア活動依頼があれば学生に参加を呼びかけているが、例年、参加は少なく課題となっている。また、今年度は依頼もなく学校の方針としても行動自粛を強いたため、学生、教員共に活動はしていない。
- ・地域住民との関わりとしては、第一看護学科の老年看護学実習の一環として、老人クラブの方に数名来校いただき、学校での学生の様子も見てもらいながら、直接、話を聞く機会を設けた。
- ・学校、職業を周知するために、歯科系学科は近隣小学校と連携し、出前授業を実施した。また、看護系では第一看護学科が業者の進路ガイダンスを活用して、高校で模擬授業を実施し、助産学科は小学校で2月に「命の授業」を行った。

### ①課題

- ・広報活動が充実できていない。
- ・地域への周知、地域活動を推進するための活動ができていない。
- ・ボランティア活動への参加が少ない。

### ②改善方策

- ・学校の認知度アップに向けて、地域情報誌への掲載など、同窓会との連携を図りながら検討する。
- ・本校の魅力を伝えるポスター、ホームページの見直しをする。
- ・新型コロナウイルス感染症の動向を確認しながら、適宜、ボランティア募集の案内を提供する。また、教員も一緒に参加できるようにする。
- ・近隣小中学校との連携を継続して行う。

## 4 組織目標や計画の総合的な評価結果

本年度に定めた組織目標や学校運営計画については、入学生の確保の実績が目標を下回ったが、それ以外は、本報告書に記載したとおりすべての項目の評価点が3.5以上であり、概ね目標達成できていると評価する。